

## 大阪市立科学館 館長 齋藤 吉彦

緊急事態宣言の真ただ中、筆を走らせています。本稿がみなさまの手元に届くころには、明るい世の中になっていることを願いながら。

さて、本年度の目玉はプラネタリウム全天周映像システムのリニューアルです。2年前には点状の星々を映すプラネタリウム本体を更新し、星々が非常に美しくなっ



ています。今回更新するのは、銀河や土星、そしてハヤブサなど迫力ある巨大映像を映し出すシステムです。これが完成すると、こんな宇宙旅行ができます。「おおぐま座の腰から尻尾が北斗七星で・・・」(上図)、星空解説を堪能していると、「それでは宇宙へ！」の一声であたかも星空に吸い込まれるかのように上昇、土星の輪を潜り抜け(下の写真)、太陽系を脱し、そして天の川銀河からも抜け出して・・・自由自在に宇宙を飛び回ります。もちろん、最新の天文学や天文現象を迫力ある高精度の映像で体験できます。さらに窮屈だった座席も間隔を広くしますので、快適な宇宙空間になります。展示の目玉は7月から10月まで開催するアインシュタイン展、体験展示などで子どもから大人までアインシュタインの科学に感動していただきます。会場は大阪市立自然史博物館。残念なお知らせもあります。プラネタリウムのリニューアル工事と合わせて老朽化した建物設備の更新工事もあり、大変申し訳ないのですが、9月から2月ごろまでは休館です。休館中はオンラインなどでサイエンスをお届けしながら充電、そして2月にリニューアルオープン、どうぞご期待ください！



土星探査機「カッシーニ」による撮影